

# ピアホームだより

2015. 6. 10

## 平成 27 年度第 1 回総会開かる

5月23日土曜日、アドボケイト会平成27年度第1回総会が開かれました。

今年度は理事・幹事の役員改選の年、この2年間若干の入れ替えを経て、現在の体制になっていますので、その確認となりました。

昨年度、WEB会計を導入し会計システムの充実を図って来ましたが、報告においても、貸借対照表を含めた資産状況、前年度からの流れが見れるような資料を提出でき、理事からも分かりやすくなったとの評価を頂きました。

### グループホームに関する決算・予算状況

グループホームの運営は順調で、利用者の異動もあったのですが、比較的早く埋まり、経営的な心配は有りませんでした。

今年度4月からピアホームⅡが1増室を認められ、それに伴い職員勤務体制も若干厚くしま

した。今年度は、家賃更新の年でもあり、家賃関連の費用が膨らみます。このような事情から、ピアホームの予算は例年になく大きくなっています。

ピアホームⅠ・Ⅱともに今年度は大きく異動があり、昨年度から取り組みが始まっています。

近年、対応が難しい方も多いのですが、関係機関と連携し、恙なく進めて行きたいと思っています。

### 白石先生の講演から

お忙しい中、総会に足を運んで白石教授に講演をして頂きましたので、要旨を報告致します。いつものように、曖昧ながらテーマを一精神病の理解に役立つ根本的なところの説明一とのお願いをしました。

### 病気とは障害とは何か？

精神病とは、脳の機能が何らかの障害を受けている状態と考えられますが、障害とは、そのことを原因にして、その当事者が、社会での生きづらさを1年半以上継続して感じている状態—これは障害手帳が出る基準のようす—だそうです。

精神の障害者は治療を受け一定の安定を保っている方は、見た目も往々にして健常者と違

わないために、どこに障害があるのか？サボってるのではないか？—とかの誤解を招き安いところがあります。

しかし、一見、正常に見える彼らですが、環境が変わる—退院した、グループホームに出た、就労した、親が無くなった—等々。

それが、本人にとって過剰な負担でストレスになると崩れてしまうことが多々あります。また、もう病気は治ったんだと自己判断し、薬を止めるとう途端に最初の発病時に戻ってしまいます。

どんなに普通に見えても、背後に病気が隠れていることを忘れてはいけません。そしてその程度は各自まちまちで、かなりのお薬を吞んでいても幻聴が無くならない方、幻聴はコントロールしてるけどお仕事はできない方—など人それぞれなのです。

そんな中で、どう暮らしていくかは、その人の最も適した状態を見つけて行くことになるかもしれません。再発予防—初発のひどい体験を繰り返さなことが必要なのです。

### 今後のスケジュール

<6月19日>ピアⅠHさん新規入居

<6月末日>ピアⅠMさん退所